

2016 年度 9 月卒業式式辞

中京大学学長 安村 仁志

本日卒業される皆さん、おめでとうございます。9 月卒業ですが、少しずれただけで、胸を張って卒業してください。世界の多くの国では、9 月から学年が始まります。新しいことが始まる時です。

卒業式はアメリカでは commencement とも言います。「commence 始まり」の日だということです。「終わり」のニュアンスをもつ卒業は同時に新たな生活の「始まり」であることを告げているのです。晴れやかな門出なのです。皆さん、中京大学での学びを通じて身につけた力を信じて、勇躍新しい生活を始めてください。

本学は 1954 年に開学しました。その時の入学生は 75 名、男子 69 名、女子 6 名でした。小さな一歩でした。しかし、そこから《中京大生》という道が切り拓かれました。それは、その跡を辿ったすでに 12 万人以上にもなる卒業生によって踏み固められ、今や大路となっています。皆さんには、国内各地、世界に頼れる同窓生がいます。力強く旅立ち、自らも新しい道を開拓していきましょう。みなさんの前途に“栄光あれ！”

どうぞ、中京大学で学んだということをこれからの支えとしてください。建学の精神は、ご存じのとおり《学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ》です。学術の場では、学術の研鑽とジェントルマンシップの醸成、スポーツの場では、健康の増強、心技の錬成、スポーツマンシップの体得が目指されています。そして、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、というスポーツマンシップの 4 つの要素が、社会的存在としての人間の素養と結びつけられています。

「ルールを守る」とは、秩序の保持に不可欠であるだけでなく、人としての信頼につながるものです。人が見ていようと、いまいが、守ることは自身の尊厳にかかわることです。「ベストを尽くす」は、事に当たる際の心構えだけでなく、独りよがりでない、周りの人への配慮も込められています。「チームワーク

をつくる」においては、力や役割などの面で自分とは異なる人を互いに認め合い、助け合うことが根本にあります。誰一人欠けてもうまくいかないという状態になるということです。最後の「相手に敬意を持つ」は至高の目標です。英語では、respect the opponent です。オポウネントとは、「相手」だけでなく「敵対者」をも含みます。スポーツにおいて対戦する相手に敬意を持つということ以外に、自分とは異なる考え方を持つ人をも受け入れ、対話する姿勢を持つということでもあります。非常に難しいことですが、小さなことでもそうなれば平和につながります。

皆さんの大学はこうした高みを目指しており、その中で学んだことを大事にしてください。グローバル化が進んだ今日、さまざまな価値観が存在しますが、なんとしても「共に」「平和に」生きていくことを目指すうえで、大切なことが謳われているのです。

中京大学は皆さんにとって、母校です。同時に、世界へ船出していく母港でもあります。いつでも戻り、訪ねてくることのできる場です。大学はそれに応えられるよう既に策定している計画《NEXT10》を確実に推進し、質の高い大学を目指して進んでいきます。研究に根ざした教育、学生を大事にし、しっかり育てることを掲げ続けます。どこからにても支援してください。

最後に、改めて皆さんの努力に拍手を送ります。指導に当たってくださった教職員の方々に感謝します。門出を祝ってご臨席くださった方々にも感謝申し上げます。

Congratulations !